

1 現場視察場所・行程

- (1) 場所：厚真町
- (2) 日時：2018年10月24日、9:00～17:00

2 現場説明者・参加者

- (1) 説明者：酒井氏（新栄クリエイト），塩田
- (2) 参加者：石川，蝦名，塩田，所，中辻，林，松田（五十音順 敬称略）

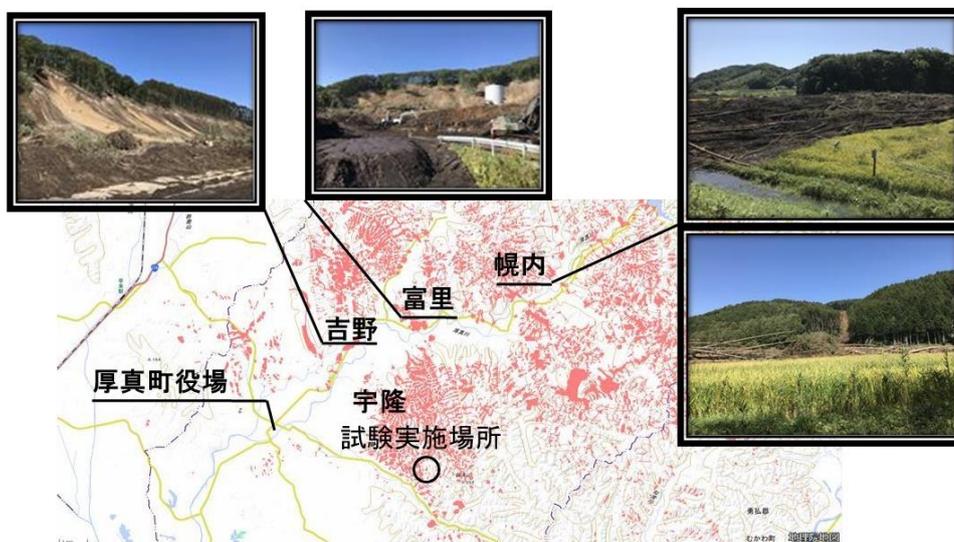
3 災害の概要と視察箇所

3.1 被災概要

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、震源地に近い厚真町では、斜面崩壊が多数発生した。

3.2 視察箇所

視察箇所および原位置試験実施箇所を図1に示す。厚真町吉野地区、富里地区、幌内地区の斜面崩壊現場を視察後、宇隆地区の斜面崩壊箇所にて原位置試験を実施した。



3.3 視察箇所写真（吉野，富里，幌内地区）



写真1 吉野地区



写真2 富里浄水場



写真3 富里浄水場背面の斜面崩壊



写真4 富里浄水場タンクに接続していた階段



写真5 タンク上層部まで付着する土砂



写真6 幌内地区の水田まで長距離滑走した土砂

3.4 原位置試験（宇隆地区）

3.4.1 試験項目

- スウェーデン式サウンディング試験
- 簡易動的コーン貫入試験
- 土壌硬度の測定（山中式）
- 透水試験（インフィルトロメータ）

3.4.2 試験結果

簡易動的コーン貫入試験，スウェーデン式サウンディング試験による換算 N 値および山中式土壌高度計による指標硬度を図1に示す。どの試験結果においても，地表から 3m までは低い値を示しており，3m を超えたあたりで N 値，硬度が増加している。崩壊箇所では掘削した結果，3，4m 付近に写真9に示す泥岩層



写真7 試験実施箇所遠景



写真8 試験実施箇所

があることがわかり、N 値、硬度が増加した原因は、泥岩層に当たったためと考えられる。

透水試験は、写真 10 に示すインフィルトメータを用いて実施した。樽前 C、樽前 D の透水係数は、それぞれ 1.06×10^{-4} (m/s)、 2.85×10^{-5} (m/s)であった。

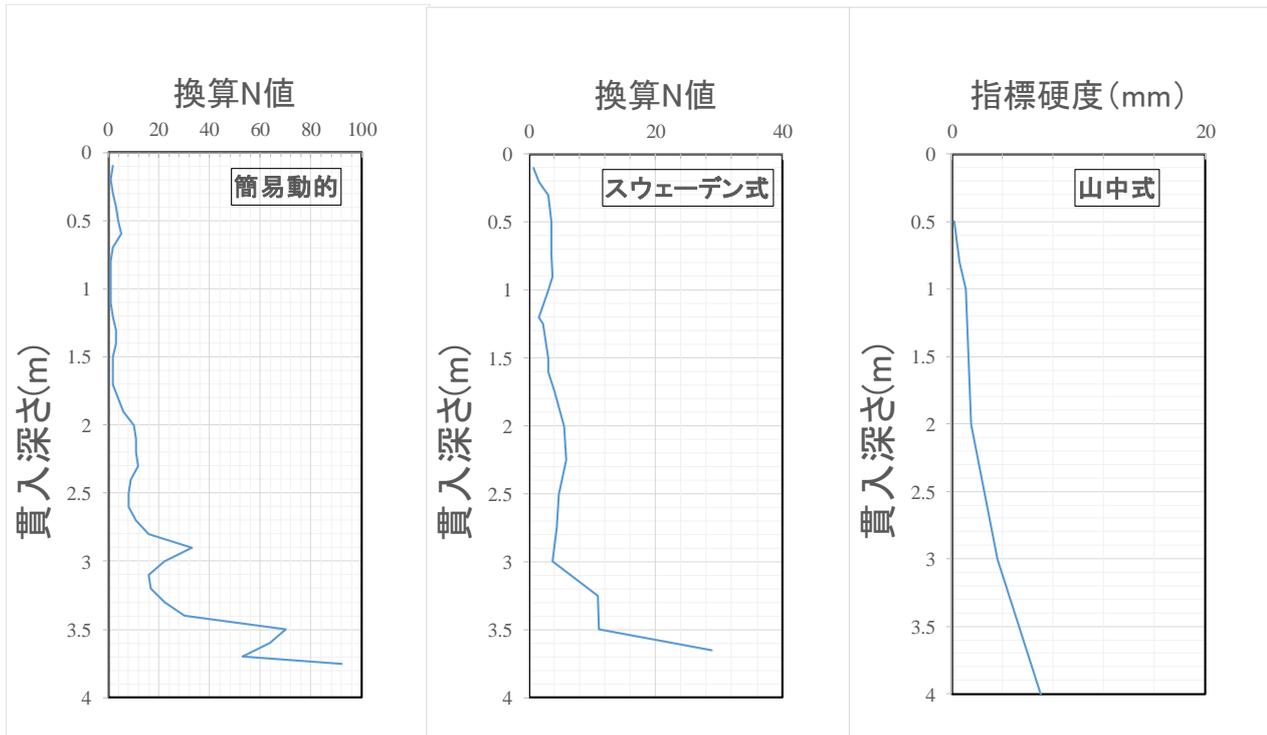


図1 各試験結果



写真9 火山灰層下の泥岩

4 検討会での課題

泥岩の存在が斜面崩壊に及ぼした影響について議論を行った。台風による雨水が比較的透水性の良い降下軽石を通過し、難透水の泥岩層より浅い層で保水した状態で、地震が発生した可能性がある。

(文責 苫小牧高専 所哲也)